

委員会等会議録（調査・研究概要）

令和元年 8 月 9 日

箱根町議会議長 様

総務企画観光常任委員会委員長

箱根町委員会条例第 26 条に規定する会議概要等(会議録)を作成したので報告します。

会議名	総務企画観光常任委員会		
開催日	令和元年 7 月 18 日（木）		
時間	午前 9 時～9 時 27 分		
開催場所	本庁舎 4 階会議室		
出席者	議会	山田成宣委員長、勝俣剛一副委員長、勝俣公好委員、小川鶴雄委員、川端祥介委員、稲葉親太郎委員、沖津弘幸委員	
	執行部	総務部長、財務課 課長、副課長、管財契約係長、管財契約係副技幹	
	事務局	高梨書記	
	傍聴者	公開・非公開の別：公開	傍聴者：なし
議題	1 庁舎施設等整備事業について		
概要	<p>次の議会において工事請負契約の締結に係る議案が上程予定である庁舎施設等整備事業 本庁舎空気調和設備他改修工事について、その概要について確認するため、担当職員より説明を受けた。</p> <p>&lt;工事概要&gt;</p> <p>本庁舎 1 階から 3 階系統の空調システムの更新、4 階系統の空調システムの更新を行う。現在の空調システムは平成 12 年度に導入したもので、今後、使用が認められなくなるフロン 22 という冷媒を利用していること、また現行の神奈川県条例に適合しないボイラーを暖房用として併用していること、機器の老朽化が著しく進んでいることから更新を行う。更新をする新空調システムは電気によるシステムを予定しており、暖房用のボイラーは使用しないことから、窒素酸化物を出さない環境に配慮したものとなっている。また本庁舎 3 階の山側の窓を二重サッシ化する等、冷暖房の効率性を高める建築工事を合わせて実施する。4 階は各部屋毎の個別空調を設置し、空調効果を高める。また動力等電機に関する整備も必要となることから、受変電設備の改修を実施していく。本庁舎 1 階機械室には空調機器の集中管理コントローラー、効率ファン等を設置し、食堂に 2 基、食堂奥和室に 1 基の部分空調の室内機を設置する。本庁舎 2 階は床置き空調吹き出し口を早川側に 6 基、山側に 4 基設置する。本庁舎 3 階は床置き空調吹き出し口を山側に 5 基、公室及び研究室に壁掛け方の部分空調の室内機を 1 機ずつ設置する。4 階は 18 基の部分</p>		

空調の室内機を設置、議場は傍聴席以外は既存の吹き出し口を利用した空調とする。屋上には空気熱源ヒートポンプ室外機、高効率ファン等の設置工事を予定している。

工事期間は機器の工場製作に伴う期間があること、また居ながら施工となり既存のシステムを一部利用しながら施工する必要があることから、年度をまたぐ施工期間、約13ヵ月間を予定している。

<主な確認事項>

- 分庁舎の空調はどうなっているのか。  
→数年前に更新し、耐用年数としては十分使用ができるため、今後、状況を見ながら更新等を行っていく。
- 個別空調機器の選定はどのように行っているのか。  
→昨年度実施設計を行い、その中でこういった機器がこの庁舎の空調の更新に相応しいかというところを実施設計業者と確認・協議をして決めたもので発注していく。
- 今度は何の冷媒を使うのか。  
→R410のフロンを使っていく。
- この工事をやることにより電気代はどうなるのか。  
→今まではボイラーと電気を併用するタイプだったので電気代が抑えられたが、今回は電気がメインになる。試算まではわからないが、電気代は少しかかってしまうかもしれないが、ボイラーの重油代が年間80~100万円かかっていたので、その分が節約できることから、全体の費用としてはあまり変わらない、もしくは安くなると思われる。
- この機器はリースとなるのか。  
→リースではなく、工事をしたことにより町の財産になる工事となる。
- 予算総額約1億700万円となっているが、この空調に関する工事金額は出ているのか。  
→継続費であるが、令和元年度分については9,961万円という額となっている。これは工事費と管理委託分となる。
- 工事の管理料金はいくらぐらい予定しているのか。  
→業者はまだきまっていないが、500~600万円を予定している。
- 予算には防水工事もあったが、関係するのか。  
→防水工事は、この工事とは別の工事となる。
- 屋上に太陽光パネルをつけて、電気料を節約したらどうか。  
→屋根の強度の問題もあるが、研究は必要だと思う。
- 本庁舎の建物自体の計画はどうなっているのか。  
→令和3~4年で方針の検討を行い、5~14年の間に改修、15~24年の間で建て替えをするかどうかの検討をすることとなっている。
- 超過課税の際、空調設備の更新について建物の改修とあわせるか等、検討を行ったのか。  
→システム自体12年に導入し、15年以上使っていることから老朽化が進んでいる。現在使っているフロンが製造中止になり補充ができない状況であることから、良いタイミングだと思っている。